国際ロータリー第2500地区第6分区

帯広東ロータリークラブ会報

2015-2016年度
帯広東ロータリークラブ

Be A gift to the world

会　　長　上野　敏郎
幹　　事　加藤　昭治
メディア委員長　西田　重人

「連：つらなる」

第1507回例会

平成28年2月18日㈭　於 北海道ホテル

■創　立：1984年6月15日　■認証：1984年6月18日　■例会：毎週火曜日 12:30～13:30
■事務局：帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F TEL0155-25-7347　■会場：ホテル日航ノースランド帯広

2015-2016年度
国際ロータリーテーマ
【世界へのプレゼントになろう】
2015-2016年度国際ロータリー会長
K．R．ラビンドラン

ガバナーテーマ
【もっとロータリーを楽しみましょう】
国際ロータリー第2500地区 ガバナー
東　堂　　明

月間テーマ
【平和と紛争予防／紛争解決月間】

◎総合司会　帯広西ＲＣ　飯田　ＳＡＡ
◎点　　鐘　帯広西ＲＣ　大友　会　長
◎開会宣言　帯広西ＲＣ　飯田　ＳＡＡ
ロータリーソング　奉仕の理想
◎講師入場　先導　帯広西ＲＣ　若林　副会長

会長挨拶　帯広西ＲＣ　大友会長

皆様、こんにちは。多くのロータリアンの皆様にこの合同例会にご参加をいただき誠にありがとうございました。２月の月間テーマ「平和と紛争予防／紛争解決月間」に相応しい方ということで、帯広西ＲＣ増井国際奉仕委員長が直接連絡をして、帯広出身でもあるジャーナリストの佐藤和孝氏を本日お迎えすることができました。佐藤氏は、アフガニスタンの紛争、同時多発テロ、イラン戦争などの紛争の現状を報道してきた方であります。今、世界をみると各地で紛争や無差別テロが多く、暴力の連鎖が絶えることになっておりません。戦争の現場を見てきた佐藤氏だからこそ生の声を聴ける機会になると思っています。本日はよろしくお願い致します。

会務報告　帯広西ＲＣ　太田幹事

①帯広北ＲＣ、２月19日(金)の例会は２月18日繰上げ例会となります。帯広ＲＣ、２月24日(水)の例会は２月18日繰上げ例会となります。
②帯広西ＲＣ、創立記念夜間例会開催のご案内
　日時　２月25日(木)午後６時30分
　場所　北海道ホテル
③帯広ＲＣ、創立記念夜間例会開催のご案内
　日時　３月９日(水)午後６時
　場所　ホテル日航ノースランド帯広
④帯広北ＲＣ、帯広東ＲＣ、音更ＲＣ、合同夜間例会開催のご案内
　日時　３月11日(金)午後６時30分
　場所　ホテル日航ノースランド帯広
※尚、帯広東ＲＣ、３月15日(火)の繰上げ例会となります。

プログラム　帯広西ＲＣ 増井国際奉仕理事

【講師経歴紹介】

今年度から２月は**「平和と紛争予防／紛争解決月間」**となりました。このテーマに相応しい講師を今回迎えることが出来ました。本日の講師はジャーナリスト・ジャパンプレス代表、一般社団法人山本美香記念財団　代表理事の佐藤和孝さんです。

佐藤さんはメディアに出られている方ですので、ご存じの会員も多いと思います。中でも私たちの記憶に最も残っている出来事と言えば、2012年シリアで取材中、パートナーであった山本美香さんを銃撃によって失った事件です。私たちには想像も出来ないような恐怖と悲しみをご経験されたでしょう。その後、山本美香さんの遺志を引き継ぎ、現在は「山本美香記念財団」を立ち上げられ、活動されております。

この財団の目的は、世界で起こっている様々な紛争とその紛争下に暮らす人々の現状を伝える事、又、その役目を担うジャーナリストの支援と育成とのことです。

それでは早速、佐藤さんにご講演頂きましょう。

演題　**【なぜジャーナリストは戦場に向かうのか】**
～山本美香の生き方～
ジャパンプレス代表　佐藤　和孝　様

僕は出身が帯広なんですね。４歳まで帯広に居りまして、親父の仕事の関係でその後東京に移ったんですけども、生まれたのがこの２月25日なんですね。今年干支が一周しまして還暦を迎える事になりました。還暦ということでもないんですが、増井国際奉仕理事よりメールを頂きまして、是非講演をやってほしいと。出身も帯広ということで、何かご縁があるのかなと、又、先程ご紹介いただいた山本美香。彼女も帯広出身で、我々二人は同郷であるということを喜んだ記憶があります。

最後に訪れたのが13年前、山本美香と一緒に来まして、何故来たかというと2003年のイラク戦争が終わった後に、美香が日本テレビの夜のニュースのキャスターに就任するということで、そのお祝いも兼ねて二人の故郷を見に来たのが13年前です。先程申しましたように、干支が一周回って、こうやって故郷に帰ってきて、帯広の名士の皆さんの前でお話を出来ることを光栄に思います。

まず、最初に山本美香と僕がどのような仕事をしていたか、17年間程の彼女がこの仕事を始めた時から、最後に至るまで10分くらいにまとめたＶＴＲがありますので、まずそちらをご覧ください。

～ＶＴＲ視聴～

今、見て頂いたＶＴＲは、2012年に日本テレビの報道局が総力を挙げて彼女の追悼会のために作成したものです。これは一切放送されておりません。

我々が何故、戦争という現場に向かうのか。僕は美香が死んだ後に、自分たちの仕事にどういう意味があるんだろうか、何故、彼女が死ななければならなかったのかということをものすごく考えました。2012年のシリアでは世界中のジャーナリストが現場に向かったわけです。多くの欧米の記者達も怪我をしたり、命を落としたりしました。第２次大戦以降、一番ジャーナリストが戦場で命を落としたのが2012年でした。そこで、世界中のジャーナリストがどういう想いで現場に向かっているのかを逆に僕自身が彼らの話を聞いてきました。

例えば、全く違うことなんですけども、後藤さんがお亡くなりになられて、色々な方に「何故そんな危険な所に行くのか」「どういう意味があるのか」、ましてや人質になられて身代金を要求され、なんか政府に迷惑をかけているんではないか、という論調を多く耳にしました。

我々ジャーナリストというのは、自分たちが何のためにこういう仕事をしているのかとか、どういう想いなのかというのは基本的に一切自分の胸の中に閉まっています。あまり言葉に出して言うとむずがゆくなるものですから。そこで先程も申上げた通り、世界のジャーナリストがどういうことを考えて現場に向かっているのかということをここで皆様にお伝えしたいと思います。

パリマッチ誌（パリの週刊誌）の記者、カロリーヌ・ポアロン。彼女もご主人と一緒にペアを組んで世界中の戦場の取材をしていて、2012年にシリアの中部で砲撃を受けてご主人を亡くすわけです。彼女はどういう気持ちで夫の死を感じたのかを聞いてみました。「私は恐怖を感じていました。嘆き悲しんでいました。道すがらすべて映像として撮影しました。それを忘れたくなかったんです。それを信じたくなかったんです。たくさん話をしたかった、話すのを止めませんでした。彼が死んだということが出来ない。私は彼が死んだと言えなかった。すごく苦しく辛い時間でした。彼の顔が生気を失っていました。複雑だったのです。」ということを彼女は僕に語ってくれました。僕も2012年に同じようにパートナーを現場で亡くしたものですから、彼女の気持ちの一旦を理解することができましたけども、言葉に言い尽くせない、そういう辛い苦しい思いではなかったのかと感じました。彼女はパリマッチ誌の記者ですから、夫を亡くしてまた現場に向かいますか？と尋ねたら、彼女はこう答えました。「それは今、私が自問自答していることです。でも、続けると思います。これからも続けていくと思います。ただ、シリアには足を踏み入れたくありません。私は仕事を続けますが、別の場所に行くでしょう。別な国・別な事件、私は率直に過酷な現場で仕事を続けていくでしょう。」

山本美香も何を考えて現場に向かっていたのか。彼女の残した言葉をご紹介したいと思います。「世界の安全は日本の安全につながります。人道的な見地からも目をそらしてはいけない大切なことが沢山あるはずです。それを“仕方がないこと”“直接関係がないこと”と排除してしまうのではジャーナリストとしての役割を果たしているとは言えません。」又、「私たちジャーナリストが何人殺されようと、残った誰かが記録して必ず世界に伝える。すべてのジャーナリストの口を塞ぐことはできない。どんな強大な力を持った存在であっても、きっと誰かが立ち向かってくだろう。」「平和な世界はたゆまぬ努力を続けていかなければ、あっという間に失われてしまいます。私たち大人は平和な世界を維持し、出来るだけ広げるように道を造ります。そして、これから先、平和な国造りを実行していくのは、今、10代の皆さんです。世界は戦争ばかりと悲観している時間はありません。この瞬間にもまた一つ、大切な命が奪われているかもしれない。目をつぶってそんなことを想像してみてください。」

ジャーナリストは何で戦場に向かうのか？何の意味があるのか？今、世界で起こっていることを伝えるのが我々の仕事だからです。この仕事が無くなれば多くの人が知ることが出来なくなるのではなかろうか。という自負を持ちながら今日はお話をさせて頂きました。

謝　辞　　帯広東ＲＣ　上野　会長

通常我々が体験できない戦争というものを身近に感じさせてもらうお話をいただきました。山本美香さんがどういう視線で我々に戦争を伝えてきたのかということを教えていただきました。我々はこの嘆かわしい戦争に立ち向かうことを考える時間であったと思います。

話が変わりますが、佐藤氏は昭和31年生まれであり、この昭和31年当時は鳩山一郎内閣でした。鳩山首相は「軍備を持たない現憲法に反対する」と国会で発言しました。国会は紛糾し二日後に発言を撤回しました。現在、中央政治では憲法改正の議論がなされています。どういうものが我々に相応しいのか、憲法と平和、憲法と紛争を共に考える時間になればと良いと思いました。大変貴重な時間をありがとうございました。

◎講師退場	先導	帯広西ＲＣ	若林　副会長
◎閉会宣言		帯広西ＲＣ	飯田　ＳＡＡ
◎点　　鐘		帯広西ＲＣ	大友　会　長

次週プログラム　　国際奉仕・ロータリー財団委員会

２月23日（火）【会員卓話】